様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月　８ 日現在

機関番号：１３９０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2017～2022
課題番号：１７Ｋ０３５２８

研究課題名（和文）マルチ・レベル選挙制度下におけるイギリス政党政治の変容についての研究

研究課題名（英文）A Study of the Transformation of British Party System under the Multi-level Electoral System

研究代表者
近藤　康史（Kondo, Yasushi）

名古屋大学・法学研究科・教授

研究者番号：００３２３２３８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、戦後、保守党と労働党による安定した二大政党システムを形成してきたイギリスにおける政党システムの変化と政党間対立構造の変容について分析した。政党システムの変化に関しては、地域議会選挙・国政選挙・ヨーロッパ議会選挙の間での選挙制度のマルチ・レベル化が、イギリスにおける多党化に対して影響を与えていることを示した。また、政党間対立構造に関しては、経済的次元と文化的次元から構成される対立軸の二次元化の中で、イギリスにおいても文化的次元のセイリエンスが高まった結果、保守党・労働党の政策ポジションが変化し、対立構造の変化がもたらされていることについて、選挙分析や政策分析を通じて示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、近年の比較政治学において発展しつつある選挙制度論や、経済的次元と文化的次元からなる対立軸の二次元化といった分析枠組を取り込み、それをイギリス二大政党制の変容を検討した。このことは、近年、イギリス政治研究において課題となってきた政党システムの変化を説明したという学術的意義を有するだけでなく、様々な国家でこのような変化を説明しうる枠組を形成しようとした点で、比較政治学上の意義もある。
またそのことは、EU離脱やポピュリズム政党の台頭といった、社会的にも注目される現象に対して説明を与えたほか、日本も含め、政党システムが変化しつつある現状に対して示唆を与えようとした点にも社会的意義を有する。

研究成果の概要（英文）：First, this research project tried to analyze the changes of the party system in the UK from the perspective of multi-level electoral system consisting of regional, national and European election. This multi-level electoral system influenced the emergence of new parties and the changes of the two-party system in the UK.
Second, this research project tried to analyze the transformation of the opposition structure consisting of Conservative and Labour with increased salience of the cultural dimension by examining the election results and policies of both parties,

研究分野：政治学

キーワード：イギリス政治　政党　政党システム　比較政治　二大政党　労働党

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

日本や欧州など、近年の先進諸国に共通する状況として、政党システムの動揺・変動がある。とりわけ、労働党・保守党の安定した二大政党システムを形成してきたイギリスでは、スコットランド国民党の伸長や英国独立党の台頭が見られ、また得票率でみた有効政党数も、近年では4.0に迫るなど、著しい多党化の傾向が見られるようになっていた。この政党システムの動揺は、小選挙区制が二大政党制をもたらすというデュヴェルジェの法則から逸脱した現象であり、その要因の探求が求められている。

その観点からまず注目されるのが、イギリスにおける選挙制度のマルチ・レベル化である。イギリスにおいては、1999 年にヨーロッパ議会選挙の選挙制度として比例代表制が導入され、国政選挙の小選挙区制とは異なる選挙制度が並立することになった。さらに 1999 年の分権化改革によって、スコットランド等に地域議会が開設されたが、それらの地域議会選挙においても、小選挙区制よりも比例性の高い選挙制度が採用された。その結果イギリスでは、ヨーロッパレベル、国政レベル、地域レベルにおいて、効果の異なる選挙制度が採用されることとなった。このことが「マルチ・レベルの選挙制度」として、国政選挙における政党システムに関しても一定の汚染効果をもたらしたのではないかという着想を得た。

さらに、これらの効果と並んで重視されるのは、政党間対立構造の変化である。近年のヨーロッパ政治研究においては、従来の経済的対立軸に加えて、新たに文化的対立軸のセイリエンスが増し、社会的な対立構造も二次元化しているという研究が見られる。イギリスにおいても、これらの対立構造の二次元化が生じたことによって、一つには多党化が、さらには従来の二大政党間においても、一定の対立・競争構造の変化が見られるのではないか。またこのことは、二大政党それぞれの政策的立場の変化をもたらしているのではないか。この点も、研究開始当初の背景として存在した。

２．研究の目的

まず、イギリスにおける選挙制度のマルチ・レベル化が、政党システムおよび、保守党・労働党の政党戦略や政党組織にどのような変化をもたらしたのかについて検討することを目的とした。この選挙制度のマルチ・レベル化の中でも、一方にはヨーロッパ議会選挙、および EU との関係がある。この変化が、国政選挙におけるイギリス独立党（UKIP）の台頭をもたらした結果として多党化に結びついた点について検討するとともに、EU という争点がセイリエンスを高める中で、イギリスにおいても文化的対立の重要性が増し、そのことが保守党や労働党の戦略にも変化をもたらした点について検証しようとした。さらに、EU 離脱前と離脱後において、そのような戦略にどのような変化がもたらされたのかについても分析することを目的とした。

選挙制度のマルチ・レベル化との関連で他方では、スコットランド議会などの地域議会選挙との関係がある。特にスコットランド議会選挙に焦点を当てた上で、国政レベルにおけるスコットランド国民党（SNP）の台頭が多党化に結びついた点を検討しようとした。同時に、分権化という争点もまた文化的対立軸としての性質を持つことを念頭に置きながら、保守党や労働党の戦略の変化との関係について分析することを目的とした。

文化的対立軸の台頭と対立構造の二次元化は、EU や分権化だけではなく、福祉国家政策や家族政策といった社会的投資政策との関係も深いことから、二大政党、特に労働党におけるこれらの政策の取り組みについて検討しつつ、イギリスの二大政党間の政党間対立構造の変化について解明することも目的とした。

３．研究の方法

第一に、マルチ・レベル選挙制度に伴う政党システムの変化や、経済的次元と文化的次元からなる対立構造に関し、広くヨーロッパ政治を念頭に置きながら主に比較政治の文献を調査し、理論枠組を形成するとともに、それがイギリスの二大政党制や政党政治にも適用可能であるかどうかを検討した。より具体的には、一方での分権化や連邦化、他方での EU 化が、政党システムや政党組織に与える影響についての観点から、単に既存政党だけでなく、地域政党の出現や台頭までを視野に入れた枠組みを検討するとともに、文化的対立軸のセイリエンスの高まりと政党の立場・戦略の変化にどのように結びつくかについて、理論的に考察した。

その上で第二に、イギリス政治の全体像の中に、マルチ・レベル選挙制度の効果を位置付ける作業を行なった。近年のイギリス政治における多党化現象について、特に 1999 年以降のスコットランド議会選挙やヨーロッパ議会選挙において比例代表制の要素が導入されて以降の、国政レベルでの二大政党の政党組織や政党システムの変化を分析し、その効果について検討した。

第三に、研究期間中に２度の総選挙（2017 年、2019 年）が行われたことから、それぞれの選挙における各政党のマニフェストを分析し、それらの二次元的な対立軸における位置付けやそ

の変化について検討した。また、有権者の投票行動についてもデータに基づいて分析し、二大政党の支持構造の変化や、小政党の支持構造について分析し、多党化の要因について検討した。
　第四に、主に福祉国家政策と家族政策に焦点を当て、二大政党の政策文書を収集・検討することによって。それらの政策的位置がどのように変化しているかを検討した。特に労働党については、1990 年代以降における変化を中心に分析し、それが保守党との間での政党間対立構造に対してどのような影響を及ぼしているかについて分析した。

４．研究成果

（１）イギリス政治の全体像の中にマルチ・レベル選挙制度の効果を位置付ける作業を行い、近年のイギリス政治における多党化現象について、特に 1999 年に、スコットランド議会やヨーロッパ議会選挙において比例代表制が導入されて以降、国政レベルにおける有効政党数も増加していることなど、マルチ・レベルな選挙制度の効果が現れていることについて解明した。この成果については、主に以下のような形で発表している。
［雑誌論文］
近藤康史「イギリス政党政治の変化と展望」『労働調査』566 号、2017 年、4-8 頁。
近藤康史「イギリス議会政治と EU 離脱」『山形大学法学論叢』73 号、2020 年、152-185 頁。
［学会発表］
近藤康史「イギリスにおける政党間対立の構図と変容」、現代イギリス政治研究会、2017 年。
［図書］
近藤康史『分解するイギリス』筑摩書房、2017 年、267 頁。

（２）上記のような政党システムの変化についての分析をさらに進め、イギリスにおける二大政党の政党間競合の構造が、どのように変容しているかについて、2016 年国民投票、2017 年・19 年総選挙の結果に基づき分析した。その結果、イギリスにおいても経済的次元・文化的次元という形で対立軸の二次元化が生じているが、二大政党間の対立軸はその両次元にまたがる形で再編成されていることを示した。またその変化は、両政党内での分断状況を生み出しており、その音がイギリス議会政治のあり方にも変化をもたらしていることについて検討した。これらの成果については、主に以下のような形で発表した。
［雑誌論文］
近藤康史「イギリス市民の選択」『世界』931 号、2020 年、23-26 頁。
近藤康史「EU をめぐる分断はイギリスの政党政治を変えたか？」『Voters』69 号、2022 年、13-15 頁。
［学会発表］
近藤康史「イギリスにおける政党間対立の構図と変容」日本選挙学会、2018 年。
近藤康史「制度的分解の中のイギリス議院内閣制」日本学術会議公開シンポジウム、2018 年。
［図書］
近藤康史「イギリス」松尾秀哉・近藤康史・近藤正基・溝口修平（編著）『教養としてのヨーロッパ政治』ミネルヴァ書房、2019 年、7-25 頁。

（３）上記のような二大政党の変化について、特にイギリス労働党の変化に焦点を当て、歴史や国際比較の観点も含めつつ分析をした。その際、特に労働党における社会的投資政策への重点のシフトによって、対立軸の二次元化におけるポジションの変化が引き起こされたことや、そのことにより保守党との間での対立構造が再編成されたことについて解明した。これらの成果については、主に以下のような形で発表した。
［雑誌論文］
近藤康史「イギリス福祉国家の社会的投資への展開と政党間対立」『日英教育研究フォーラム』25 号、2021 年、7-14 頁。
［学会発表］
近藤康史「社会民主主義の「第二の危機」とイギリス労働党」東北大学政治学研究会、2020 年。
［図書］
近藤康史「ヨーロッパの社会民主主義／労働勢力」伊藤武・網谷龍介編著『ヨーロッパ・デモクラシーの論点』ナカニシヤ出版、2021 年、69-90 頁。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 近藤 康史	４．巻 25
２．論文標題 イギリス福祉国家の社会的投資への展開と政党間対立	５．発行年 2021年
３．雑誌名 日英教育研究フォーラム	６．最初と最後の頁 007～014
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.19021/juef.25.0_007	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 近藤康史	４．巻 931
２．論文標題 イギリス市民の選択	５．発行年 2020年
３．雑誌名 世界	６．最初と最後の頁 23-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 近藤康史	４．巻 73
２．論文標題 イギリス議会政治とEU離脱	５．発行年 2020年
３．雑誌名 山形大学法学論叢	６．最初と最後の頁 152-185
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 近藤康史	４．巻 566
２．論文標題 イギリス政党政治の変化と展望	５．発行年 2017年
３．雑誌名 労働調査	６．最初と最後の頁 4-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計4件（うち招待講演　2件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 近藤康史
2．発表標題 社会民主主義の「第二の危機」とイギリス労働党
3．学会等名 東北大学政治学研究会（招待講演）
4．発表年 2020年

1．発表者名 近藤康史
2．発表標題 イギリスにおける政党間対立の構図と変容
3．学会等名 日本選挙学会
4．発表年 2018年

1．発表者名 近藤康史
2．発表標題 制度的分解の中のイギリス議院内閣制
3．学会等名 日本学術会議公開シンポジウム「議院内閣制はいま動いている」（招待講演）
4．発表年 2018年

1．発表者名 近藤康史
2．発表標題 イギリスの選挙における政党間対立の構図と変容：『分解するイギリス』とその後
3．学会等名 現代イギリス政治研究会
4．発表年 2017年

〔図書〕　計4件

1．著者名 伊藤武・網谷龍介編著、近藤康史・古賀光生・八十田博人・野田昌吾・成廣孝・神江沙蘭・中田瑞穂・千田航・佐藤俊輔・岡部みどり著	4．発行年 2021年
2．出版社 ナカニシヤ出版	5．総ページ数 266
3．書名 ヨーロッパ・デモクラシーの論点	

1．著者名 田村哲樹・近藤康史・堀江孝司	4．発行年 2020年
2．出版社 勁草書房	5．総ページ数 416
3．書名 政治学	

1．著者名 松尾秀哉・近藤康史・近藤正基・溝口修平編著、小館尚文・千葉優子・尾玉剛士・穐山洋子・梶原克彦・松本佐保・佐藤良輔・細田晴子・西脇靖洋・村田奈々子・浅井亜希・藤島亮・久保慶一・荻野晃・福田宏・市川顕・松嵜英也・中井遼・佐藤俊輔・岩坂将充著	4．発行年 2019年
2．出版社 ミネルヴァ書房	5．総ページ数 479
3．書名 教養のヨーロッパ政治	

1．著者名 近藤康史	4．発行年 2017年
2．出版社 筑摩書房	5．総ページ数 267
3．書名 分解するイギリス：民主主義モデルの漂流	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関